



電通総研
コンパス
vol.

1

「いのちを守る STAY HOME週間」における
人の意識・行動
2020年5月

➤ 本調査内容に関する問合せ先
電通総研：山崎、千葉、中川、吉田
E-mail d-ii@dentsu.co.jp

クオリティ
オブ
ソサエティ

電通
総研

■本調査の設計における電通総研の視点

電通総研では、4月25日から5月6日までI都3県で行われた「いのちを守るSTAY HOME週間」の都県民の意識と行動について調査をおこないました。

今後の日本が新型コロナウイルス感染抑制と経済活動の再活発化を両立させるためには、中枢地域であるI都3県の施策展開が最も重要であると考えます。東京都と3県の東京隣接都市を合わせた地域（東京圏）は、ひとつの経済圏＝生活圏であり、都内に3県から毎日流入する昼間人口は約272万人*に達します。

東京圏の感染拡大は、日本の中で最も危機的状況にあり、また人の行動変容を促すことも困難な地域です。

I都3県の間の人々の移動についてはすでに定量データがありますが、電通総研は人の意識や行動の理由を把握することに重点を置き、調査を試みました。

【調査概要】

調査時期 2020年5月8～10日

サンプル数 1,000人

調査地域 I都3県
(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)

調査方法 インターネット調査

調査対象者 18歳～79歳までの男女（※高校生除く）

調査実施機関 電通マクロミルインサイト

対象者割付

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳
男性	85	89	106	79	82	62
女性	80	85	100	75	85	72

※性×年代（10歳刻み）の人口構成比に揃えて回収

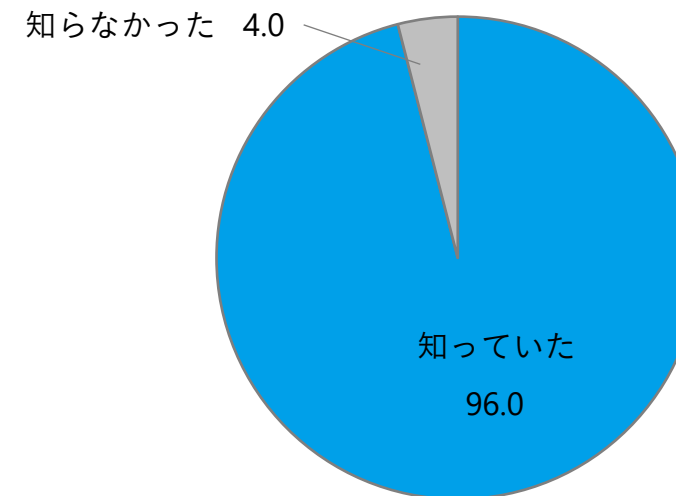
*東京都ウェブサイト「『東京都の昼間人口』（従業地・通学地による人口）の概要」より（<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2018/03/20/12.html>）

■全体

「いのちを守る STAY HOME週間」の全体認知は、**96.0%**

Q：新型コロナウイルスの緊急対策として、東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県の1都3県がゴールデンウィーク期間を含む4月25日から5月6日までを「いのちを守る STAY HOME週間」として、外出自粛を呼びかけたことをあなたは知っていましたか。また、実際に外出を自粛しましたか。「自粛」の定義はあなたご自身の感覚でお答えください。（「知っている、外出を自粛できた」、「知っていたが、外出を自粛できなかった」、「呼びかけを知らなかったが、外出を自粛できた」、「呼びかけを知らず、外出を自粛できなかった」の4択）

「いのちを守る STAY HOME週間」認知率（%）



■性年代別

男女ともに10～20代が比較的認知率がわずかに低いが、大きな差は見られない。

性年齢に関わらず広く認知されていたと考えられる。

「いのちを守る STAY HOME週間」認知率：性年代別（%）

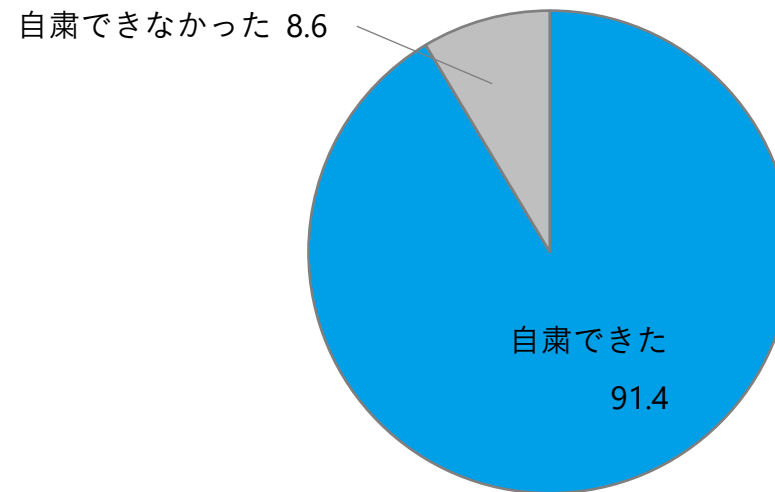
	知っていた	知らなかった		知っていた	知らなかった
男性全体	95.2	4.8	女性全体	96.8	3.2
男性18～29歳	91.8	8.2	女性18～29歳	92.5	7.5
男性30～39歳	93.3	6.7	女性30～39歳	100.0	0.0
男性40～49歳	96.2	3.8	女性40～49歳	94.0	6.0
男性50～59歳	97.5	2.5	女性50～59歳	97.3	2.7
男性60～69歳	95.1	4.9	女性60～69歳	100.0	0.0
男性70～79歳	98.4	1.6	女性70～79歳	97.2	2.8

■全体

「外出を自粛できた」は全体で、**91.4%**

Q：新型コロナウイルスの緊急対策として、東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県の1都3県がゴールデンウィーク期間を含む4月25日から5月6日までを「いのちを守る STAY HOME週間」として、外出自粛を呼びかけたことをあなたは知っていましたか。また、実際に外出を自粛しましたか。「自粛」の定義はあなたご自身の感覚でお答えください。（「知っていて、外出を自粛できた」、「知っていたが、外出を自粛できなかった」、「呼びかけを知らなかったが、外出を自粛できた」、「呼びかけを知らず、外出を自粛できなかった」の4択）

「いのちを守る STAY HOME週間」外出自粛率（%）



■性年代別

「外出を自粛できた」人の割合は、男性（88.5%）よりも女性（94.4%）のほうが大きかった。

最も「自粛できた」のは女性60代、最も「自粛できなかった」のは男性70代。

「いのちを守る STAY HOME週間」外出自粛率：性年代別（%）

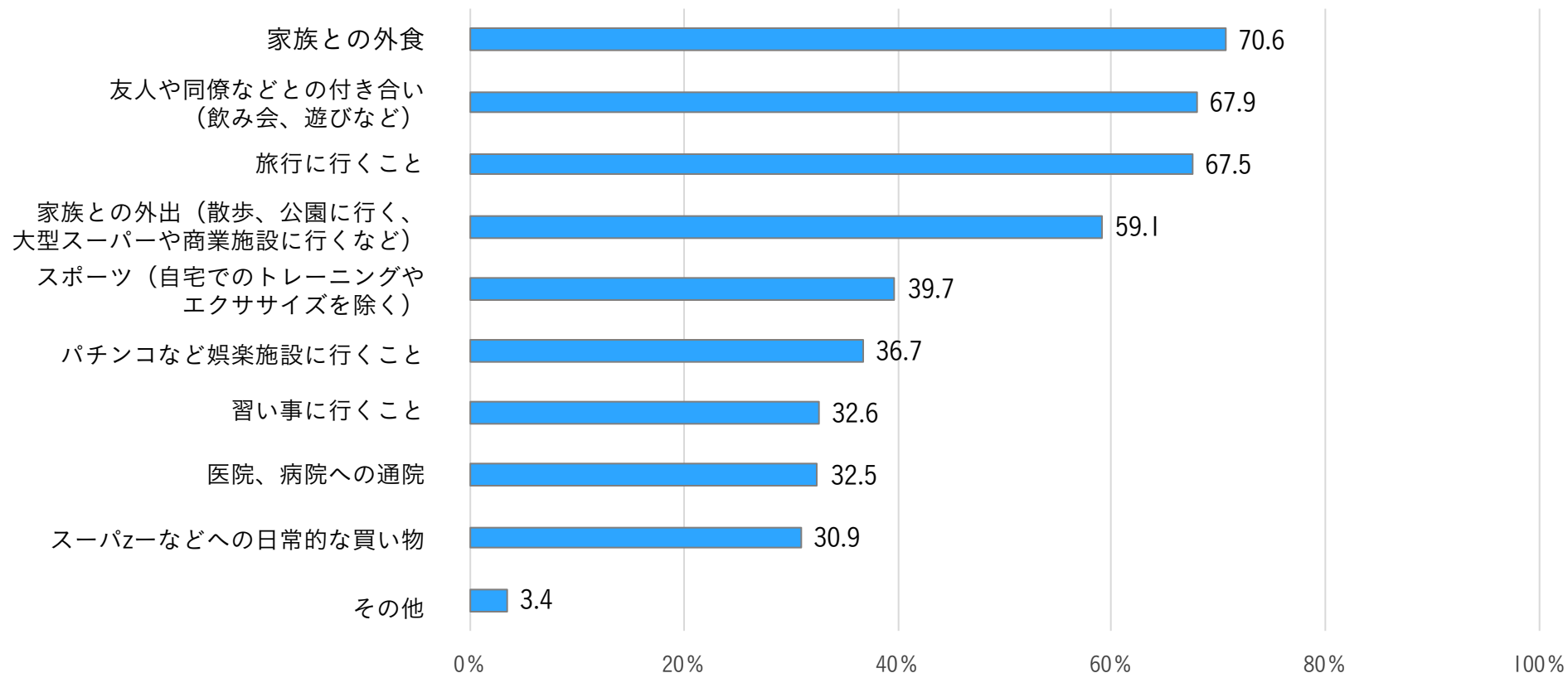
	自粛できた	自粛できなかった
男性全体	88.5	11.5
男性18～29歳	89.4	10.6
男性30～39歳	86.5	13.5
男性40～49歳	93.4	6.6
男性50～59歳	88.6	11.4
男性60～69歳	86.6	13.4
男性70～79歳	83.9	16.1

	自粛できた	自粛できなかった
女性全体	94.4	5.6
女性18～29歳	95.0	5.0
女性30～39歳	94.1	5.9
女性40～49歳	92.0	8.0
女性50～59歳	94.7	5.3
女性60～69歳	97.6	2.4
女性70～79歳	93.1	6.9

■具体的に自粛できたこと

「家族との外食」（70.6%）、「友人や同僚との付き合い」（67.9%）、「旅行」（67.5%）など、人との接触を伴うものほど、「自粛できた」と答えた人が多かった。

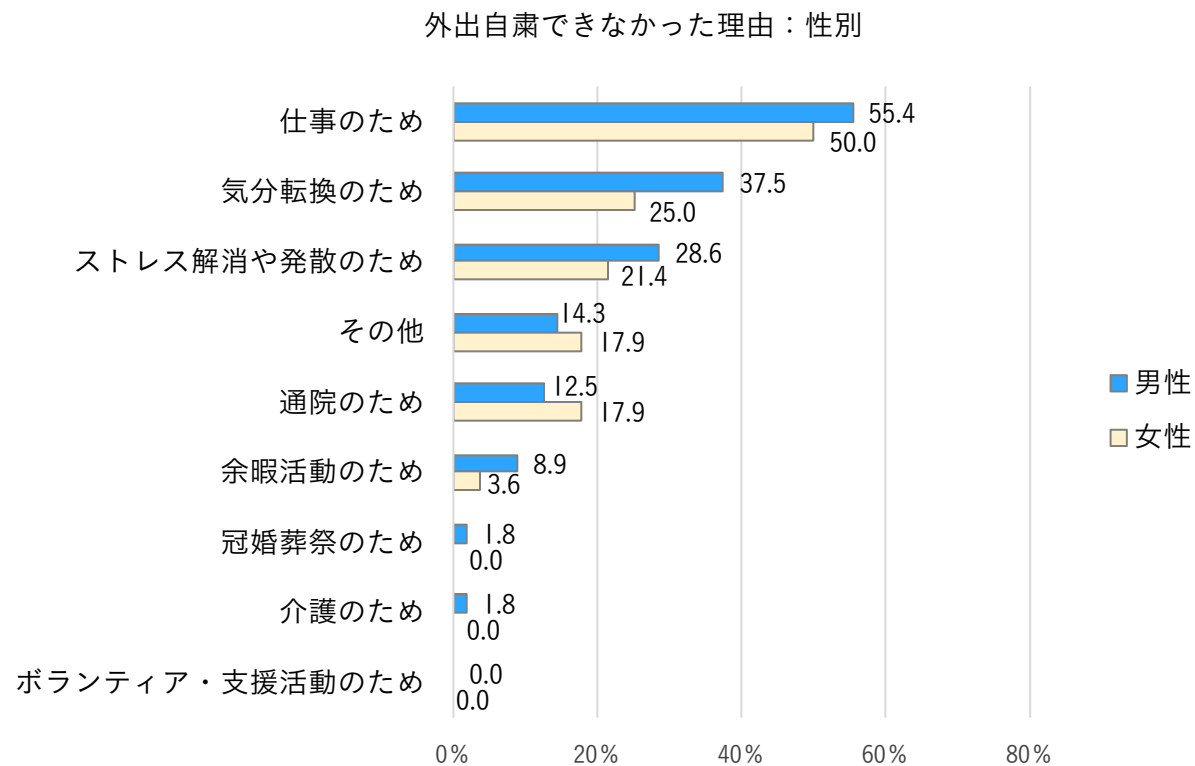
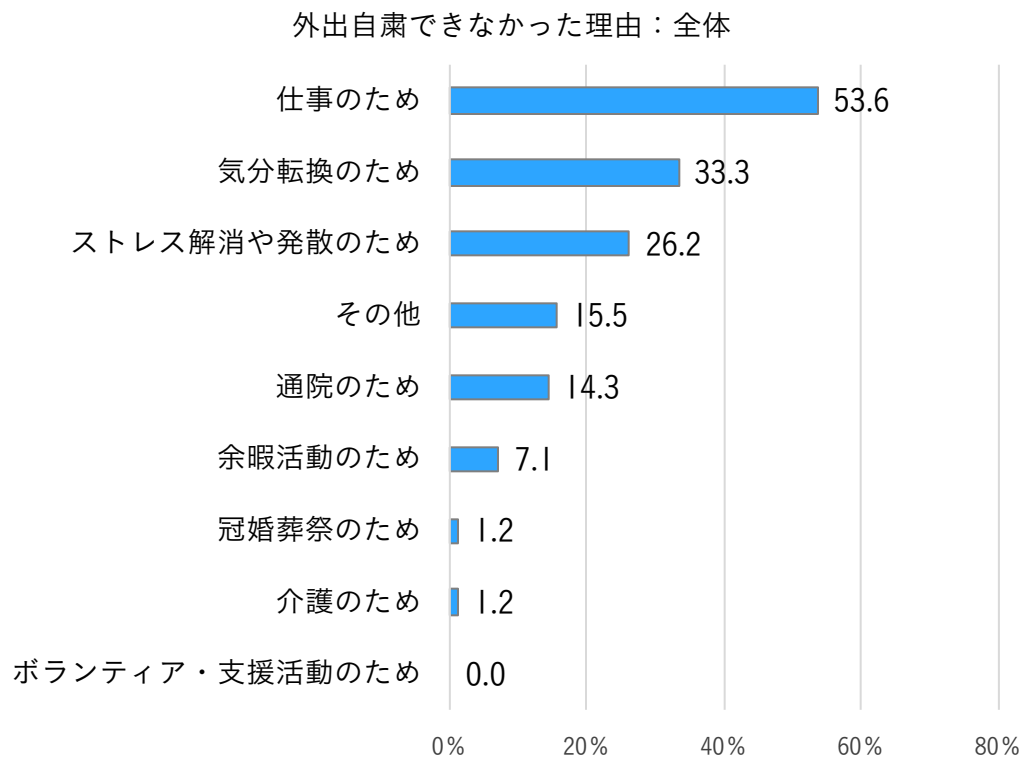
Q：前問で、「自粛できた」と答えた方にお伺いします。具体的には、どのようなことを自粛しましたか。あてはまるものをすべてお知らせください。



■自粛できなかった理由

「自粛できなかった」の理由は「仕事のため」が最も高く、53.6%。「余暇活動」は7.1%と比較的低く、外出自粛の意志はあったと推察されるが、「気分転換」(33.3%)、「ストレス解消や発散」(26.2%)などを理由とした外出が見受けられた。性年齢別では、男性のほうが年代を問わず「気分転換」「ストレス解消や発散」を回答する人の割合が大きかった。

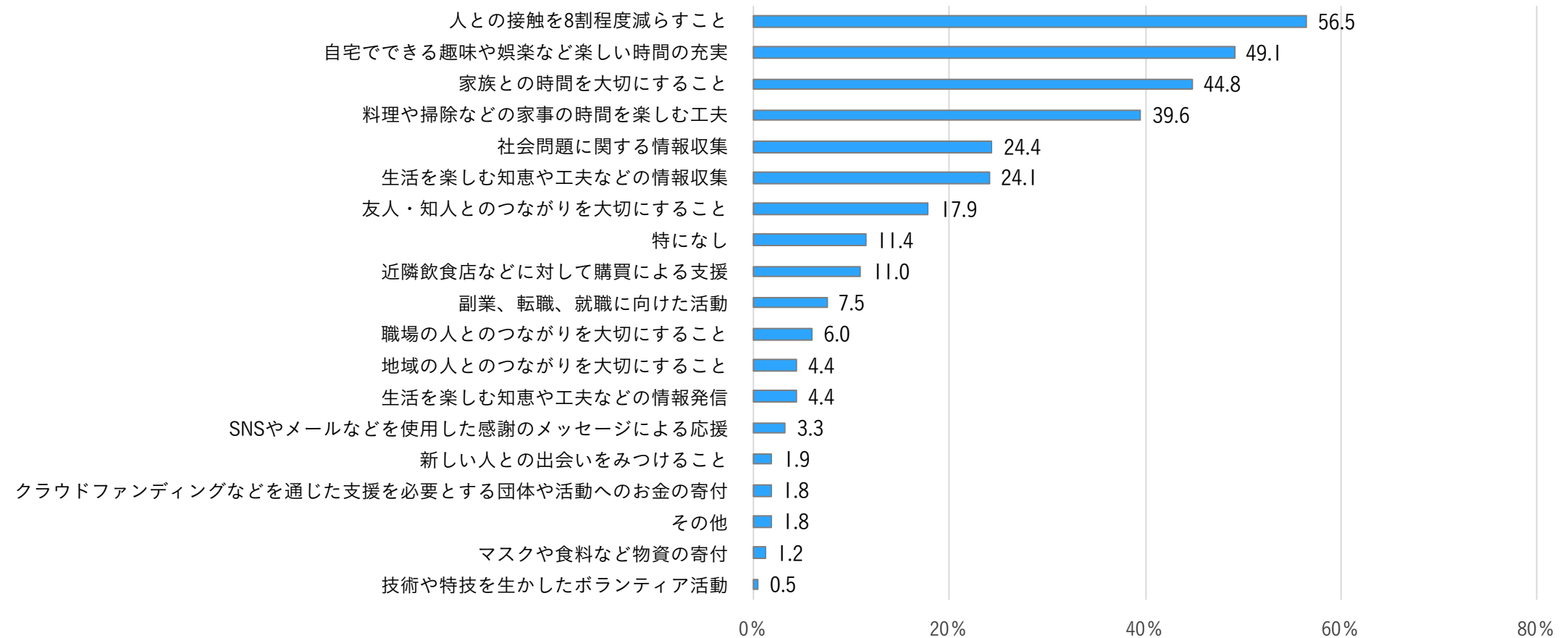
Q：あなたは、「知っていたが、外出を自粛できなかった」とお答えになりましたが、外出を自粛できなかった理由は何ですか。あてはまるものをすべてお知らせください。



■直近2週間の行動について：実際にしたこと

直近2週間で「実際にしたこと」では「人との接触」を減らすことのほか、自宅での「楽しい時間の充実」「家族との時間を大切にする」など、家での過ごし方に関することが主だった。

Q：4月25日以降、普段の生活以外であなたが実際にしたことは何ですか。また、今後（も）したいと思うことは何ですか。それぞれについて、すべてお知らせください。（実際にしたこと・今後（も）したいと思うことについてそれぞれあてはまるものをすべて回答）

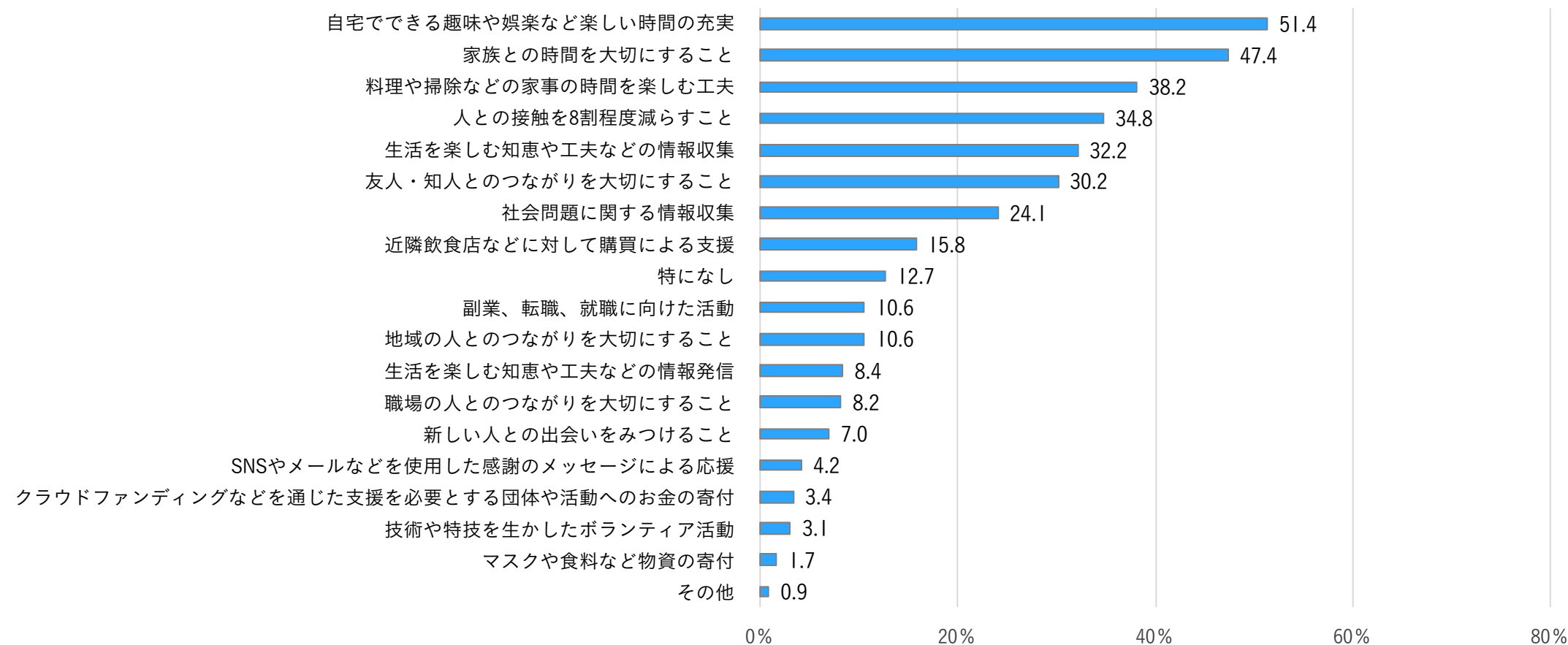


■直近2週間の行動について：今後（も）したいと思うこと

今後（も）したいことで最も多いのは、「自宅でできる趣味や娯楽など楽しい時間の充実」。

順番は異なるが上位7項目は「実際にしたこと」と同じ。

Q：4月25日以降、普段の生活以外であなたが実際にしたことは何ですか。また、今後（も）したいと思うことは何ですか。それぞれについて、すべてお知らせください。（実際にしたこと・今後（も）したいと思うことについてそれぞれあてはまるものをすべて回答）



■「今後（も）したいと思うこと」と「実際にしたこと」のギャップ

全体として「友人・知人とのつながりを大切にする」「地域の人とのつながりを大切にする」「新しい人との出会いを見つける」といった、人とのつながりに関する項目に関して差分が大きかった。性年代別に見ると男性70代、女性の10～20代から40代、70代で「近隣飲食店などに対して購買による支援」について大きくなっており、今後の人びとの行動に期待が寄せられる。

「今後（も）したいと思うこと」－「実際にしたこと」

	接触を8割程度減	趣味や娯楽など	生活関連情報収集	副業、転職、就職活動	社会問題情報収集	家事を楽しむ	家族との時間を大切に	友人・知人とのつながり	職場の人とのつながり	地域の人とのつながり	新しい人との出会い	物資の寄付	団体や活動への寄付	飲食店への購買による支援	ボランティア活動	感謝のメッセージ	情報発信	その他	特になし
全体	-21.7	2.3	8.1	3.1	-0.3	-1.4	2.6	12.3	2.2	6.2	5.1	0.5	1.6	4.8	2.6	0.9	4.0	-0.9	1.3
18～29歳	-29.1	-9.1	-1.8	6.1	-1.2	-4.2	-1.8	8.5	-1.2	3.0	6.7	-1.8	0.0	0.6	1.8	-0.6	-1.8	-0.6	2.4
30～39歳	-25.3	-0.6	8.0	1.7	-0.6	-5.2	2.3	11.5	3.4	1.1	4.0	0.6	1.1	5.7	1.7	-0.6	5.7	-0.6	3.4
40～49歳	-19.9	4.9	5.8	5.3	0.5	3.4	1.9	10.2	4.9	4.9	6.8	0.5	2.4	4.4	1.0	1.5	6.3	-0.5	1.9
50～59歳	-14.9	8.4	16.2	4.5	1.3	0.6	-0.6	10.4	1.3	7.8	5.8	1.9	1.3	3.2	3.2	1.9	3.2	-1.3	1.3
60～69歳	-22.8	10.2	16.8	0.0	-1.2	-1.2	10.2	16.8	1.8	8.4	4.2	0.6	1.2	6.6	3.0	2.4	5.4	-2.4	-1.2
男性70～79歳	-17.2	-0.7	3.7	0.0	-0.7	-3.0	3.7	17.9	2.2	14.2	2.2	1.5	3.7	9.0	6.0	0.7	4.5	0.0	-0.7
男性全体	-22.1	2.0	5.2	2.8	-1.8	-2.6	0.8	11.3	2.6	5.2	4.2	-0.2	1.0	2.0	2.4	0.0	2.6	-0.8	1.4
男性18～29歳	-27.1	-11.8	-2.4	5.9	-2.4	-4.7	-1.2	12.9	0.0	4.7	7.1	-3.5	0.0	-3.5	2.4	-1.2	-1.2	0.0	3.5
男性30～39歳	-27.0	-5.6	3.4	1.1	-4.5	-6.7	1.1	7.9	3.4	0.0	2.2	0.0	0.0	1.1	1.1	-4.5	1.1	-1.1	4.5
男性40～49歳	-22.6	0.9	0.9	7.5	0.9	-1.9	0.9	12.3	6.6	4.7	6.6	0.9	0.9	0.0	0.9	0.0	4.7	0.0	2.8
男性50～59歳	-15.2	10.1	10.1	3.8	1.3	-1.3	-3.8	5.1	1.3	5.1	6.3	1.3	1.3	3.8	2.5	0.0	2.5	-2.5	2.5
男性60～69歳	-19.5	18.3	15.9	-2.4	-3.7	3.7	2.4	15.9	-1.2	8.5	0.0	0.0	1.2	7.3	6.1	3.7	4.9	-1.2	-6.1
男性70～79歳	-19.4	1.6	4.8	-1.6	-3.2	-4.8	6.5	14.5	4.8	9.7	1.6	0.0	3.2	4.8	1.6	3.2	3.2	0.0	0.0
女性全体	-21.3	2.6	11.1	3.4	1.2	-0.2	4.4	13.3	1.8	7.2	6.0	1.2	2.2	7.6	2.8	1.8	5.4	-1.0	1.2
女性18～29歳	-31.3	-6.3	-1.3	6.3	0.0	-3.8	-2.5	3.8	-2.5	1.3	6.3	0.0	0.0	5.0	1.3	0.0	-2.5	-1.3	1.3
女性30～39歳	-23.5	4.7	12.9	2.4	3.5	-3.5	3.5	15.3	3.5	2.4	5.9	1.2	2.4	10.6	2.4	3.5	10.6	0.0	2.4
女性40～49歳	-17.0	9.0	11.0	3.0	0.0	9.0	3.0	8.0	3.0	5.0	7.0	0.0	4.0	9.0	1.0	3.0	8.0	-1.0	1.0
女性50～59歳	-14.7	6.7	22.7	5.3	1.3	2.7	2.7	16.0	1.3	10.7	5.3	2.7	1.3	2.7	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0
女性60～69歳	-25.9	2.4	17.6	2.4	1.2	-5.9	17.6	17.6	4.7	8.2	8.2	1.2	1.2	5.9	0.0	1.2	5.9	-3.5	3.5
女性70～79歳	-15.3	-2.8	2.8	1.4	1.4	-1.4	1.4	20.8	0.0	18.1	2.8	2.8	4.2	12.5	9.7	-1.4	5.6	0.0	-1.4

※横軸で上位3項目に網掛け

■時間の余裕の増減

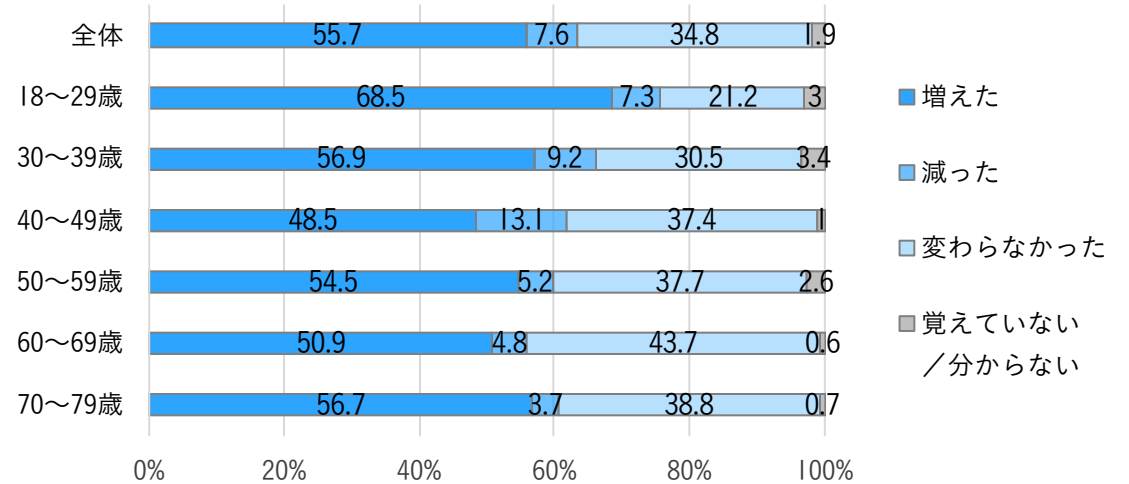
「増えた」と答えた人は、**55.7%**と半数を超え、

「変わらない」が34.8%、「減った」が7.6%となった。

「増えた」とする比率が一番大きいのが10～20代の68.5%、
一番小さいのが40代の48.5%で、

同時に40代は「減った」とする比率が13.1%と唯一10%を超えた。

Q：外出自粛要請などを受けて、それ以前と比べて、あなたの時間に余裕は増えましたか。



■性年代別

男性60代～70代で「変わらなかった」が多く、男性60代では54.9%と唯一半数を超えた。

「減った」が多いのは女性30代（15.3%）と40代（20.0%）で、他の性年代と比べて際立って高かった。

	増えた	減った	変わらなかった	覚えていない / 分からない
男性全体	54.9	4.2	38.6	2.4
男性18～29歳	65.9	7.1	22.4	4.7
男性30～39歳	60.7	3.4	31.5	4.5
男性40～49歳	55.7	6.6	36.8	0.9
男性50～59歳	53.2	2.5	41.8	2.5
男性60～69歳	42.7	2.4	54.9	0.0
男性70～79歳	48.4	1.6	48.4	1.6

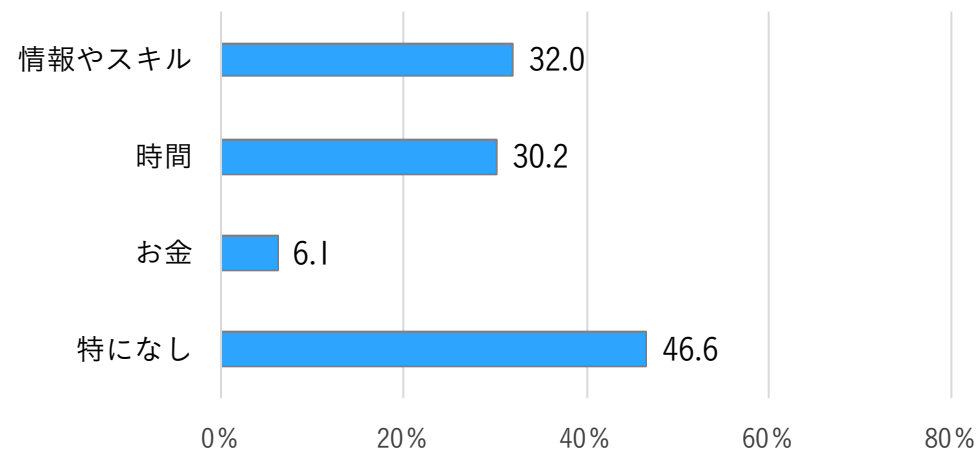
	増えた	減った	変わらなかった	覚えていない / 分からない
女性全体	56.5	11.1	31.0	1.4
女性18～29歳	71.3	7.5	20.0	1.3
女性30～39歳	52.9	15.3	29.4	2.4
女性40～49歳	41.0	20.0	38.0	1.0
女性50～59歳	56.0	8.0	33.3	2.7
女性60～69歳	58.8	7.1	32.9	1.2
女性70～79歳	63.9	5.6	30.6	0.0

■情報・スキル、時間、お金の活用について（今後）

「情報やスキル」「時間」がともに30%を超え、「お金」を大きく上回る。

Q：新型コロナウイルス感染拡大が深刻になる中で、自分の持っている情報やスキル、時間、お金などを地域や社会のために役立てたいと思いますか。また、実際に役立っているものはありますか。それぞれについて、すべてお知らせください。（「地域や社会のために役立てたいと思うもの」、「実際に、地域や社会のために役立っているもの」についてそれぞれ回答）

地域や社会のために役立てたいと思うもの



■性年代別

若年層の男女が自分の持っている「情報やスキル」を今後役立てたい、というスコアが高い結果となった。

	情報やスキル	時間	お金	特になし
男性全体	36.4	32.4	5.8	44.3
男性18～29歳	44.7	36.5	7.1	38.8
男性30～39歳	42.7	32.6	5.6	41.6
男性40～49歳	34.0	32.1	5.7	44.3
男性50～59歳	30.4	29.1	6.3	51.9
男性60～69歳	37.8	32.9	6.1	35.4
男性70～79歳	25.8	30.6	3.2	58.1

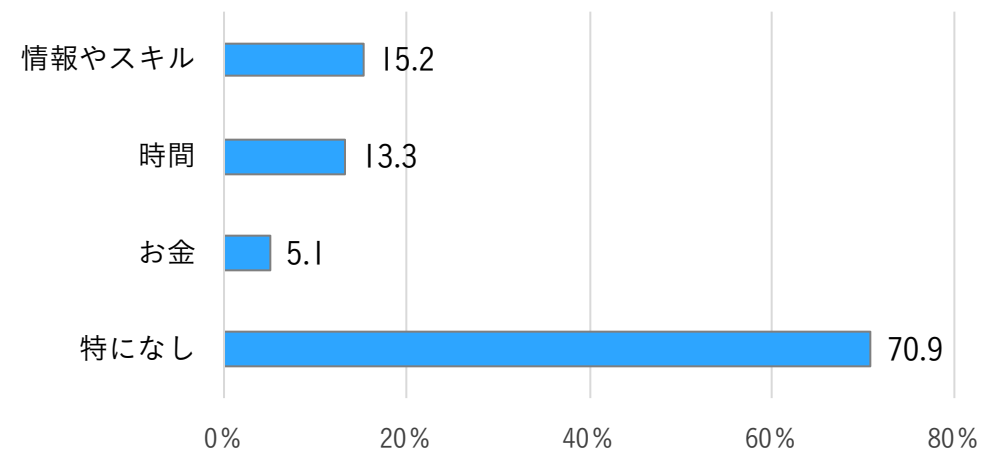
	情報やスキル	時間	お金	特になし
女性全体	27.6	28.0	6.4	48.9
女性18～29歳	43.8	30.0	8.8	37.5
女性30～39歳	25.9	24.7	3.5	54.1
女性40～49歳	33.0	32.0	5.0	45.0
女性50～59歳	17.3	30.7	1.3	57.3
女性60～69歳	21.2	25.9	10.6	50.6
女性70～79歳	22.2	23.6	9.7	50.0

■情報・スキル、時間、お金の活用について（現時点）

現時点で実際に役立っているものには、
今後役立たいものの約半数に留まる。

Q：新型コロナウイルス感染拡大が深刻になる中で、自分の持っている情報やスキル、時間、お金などを地域や社会のために役立てたいと思いますか。また、実際に役立っているものはありますか。それぞれについて、すべてお知らせください。
（「地域や社会のために役立てたいと思うもの」、「実際に、地域や社会のために役立っているもの」についてそれぞれ回答）

現時点で、実際に役立っているもの



■性年代別

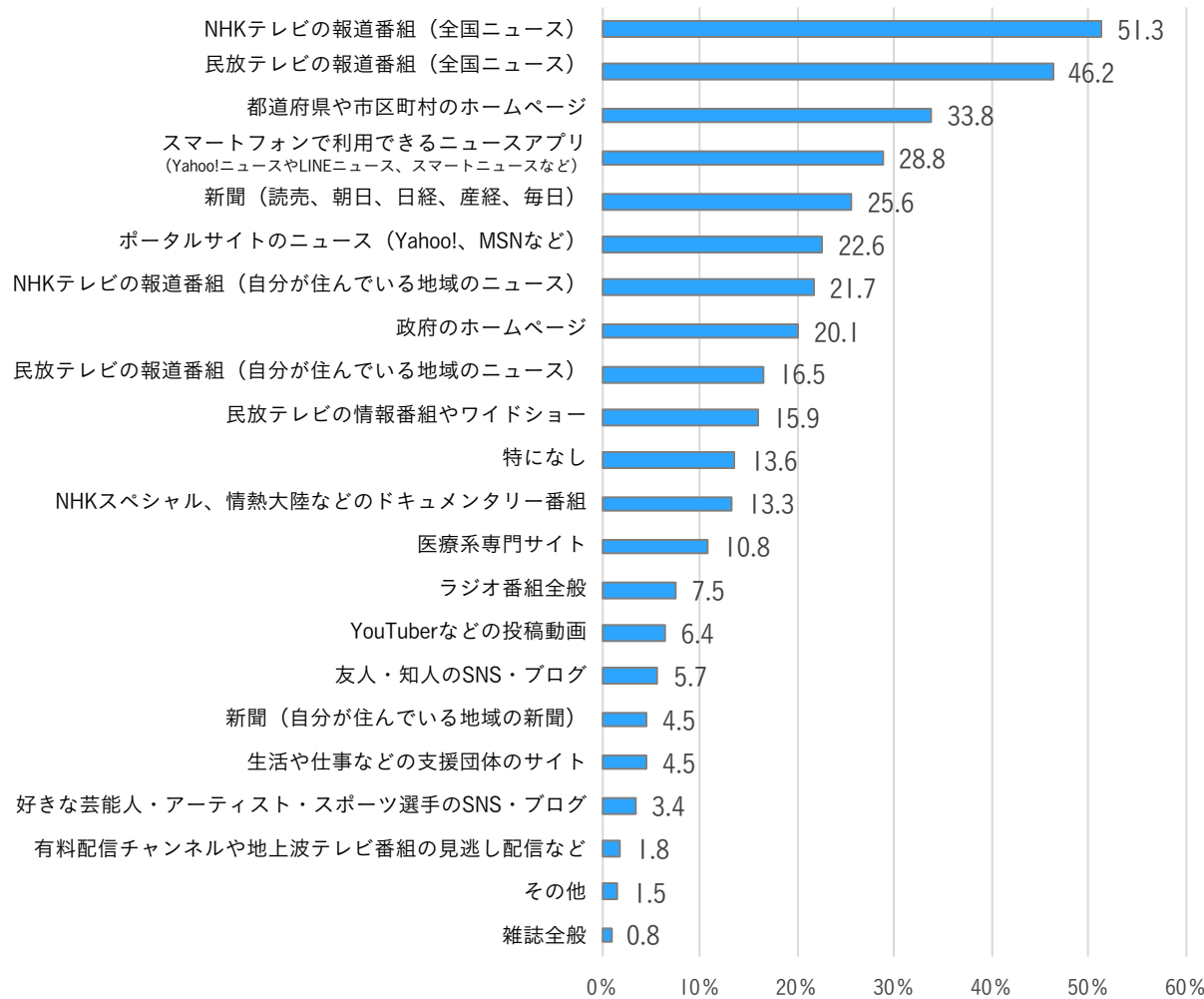
	情報やスキル	時間	お金	特になし
男性全体	17.7	15.3	5.6	67.8
男性18～29歳	18.8	20.0	9.4	62.4
男性30～39歳	27.0	14.6	5.6	64.0
男性40～49歳	13.2	14.2	6.6	70.8
男性50～59歳	12.7	13.9	3.8	70.9
男性60～69歳	18.3	11.0	3.7	68.3
男性70～79歳	16.1	19.4	3.2	71.0

	情報やスキル	時間	お金	特になし
女性全体	12.7	11.3	4.6	74.0
女性18～29歳	22.5	8.8	3.8	67.5
女性30～39歳	11.8	9.4	3.5	76.5
女性40～49歳	13.0	12.0	3.0	76.0
女性50～59歳	5.3	12.0	2.7	81.3
女性60～69歳	7.1	9.4	8.2	76.5
女性70～79歳	16.7	16.7	6.9	65.3

■信頼する情報源

TOP 3は、「NHKテレビの報道番組（全国ニュース）」、「民放テレビの報道番組（全国ニュース）」、「都道府県や市区町村のホームページ」。

Q：新型コロナウイルス感染拡大が深刻になる中で、自分の行動を判断するために、**信頼する情報源**は何ですか。（全体）



■年代別

NHKテレビ、民放テレビともに全国ニュース、都道府県や市区町村のホームページは全年代で高く、年齢が高くなるほど「新聞」が上位になった。

18～29歳 (%)

民放テレビの報道番組（全国ニュース）	40.0
NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	39.4
都道府県や市区町村のホームページ	30.9
政府のホームページ	30.3
スマートフォンで利用できるニュースアプリ	26.7

30～39歳 (%)

民放テレビの報道番組（全国ニュース）	42.5
NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	40.2
都道府県や市区町村のホームページ	32.2
スマートフォンで利用できるニュースアプリ	31.6
ポータルサイトのニュース	28.2

40～49歳 (%)

NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	47.6
民放テレビの報道番組（全国ニュース）	38.3
都道府県や市区町村のホームページ	37.9
スマートフォンで利用できるニュースアプリ	32.5
NHKテレビの報道番組（地域のニュース）	21.8

50～59歳 (%)

NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	53.2
民放テレビの報道番組（全国ニュース）	46.8
都道府県や市区町村のホームページ	35.7
スマートフォンで利用できるニュースアプリ	30.5
新聞（読売、朝日、日経、産経、毎日）	24.7

60～69歳 (%)

NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	60.5
民放テレビの報道番組（全国ニュース）	55.7
新聞（読売、朝日、日経、産経、毎日）	35.3
都道府県や市区町村のホームページ	29.9
スマートフォンで利用できるニュースアプリ	28.7

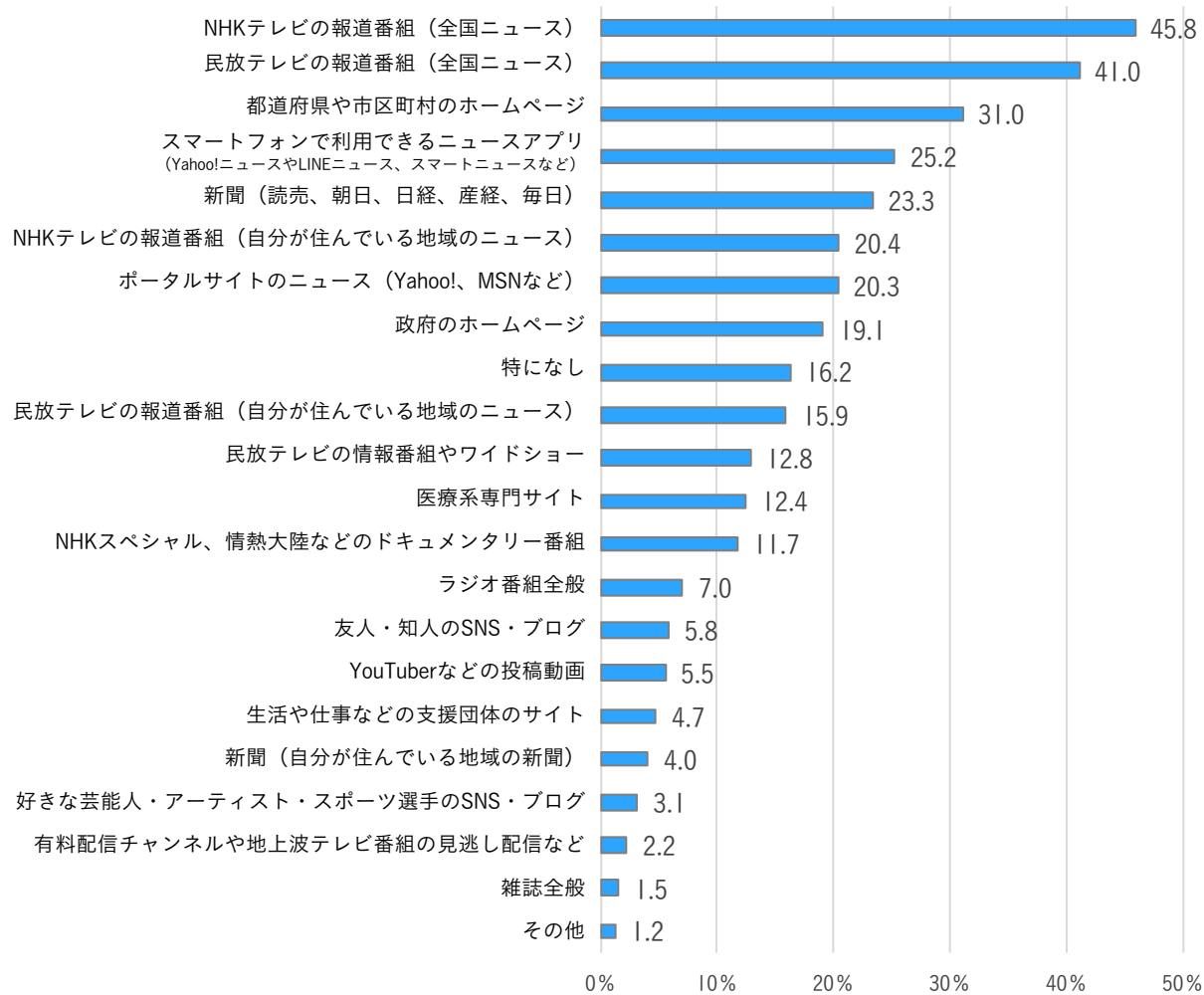
70～79歳 (%)

NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	72.4
民放テレビの報道番組（全国ニュース）	58.2
新聞（読売、朝日、日経、産経、毎日）	50.0
NHKテレビの報道番組（地域のニュース）	36.6
都道府県や市区町村のホームページ	35.8

■今後（も）期待したい情報源

信頼する情報源と順位はほぼ変わらず。「信頼する」よりも「今後（も）期待したい」割合が全体的に小さくなった。

Q：新型コロナウイルス感染拡大が深刻になる中で、自分の行動を判断するために、今後（も）期待したい情報源は何ですか。（全体）



■年代別

期待したい情報源の年代別のTOP 3も、信頼する情報源と変わらず。「ポータルサイトのニュース」への期待が30代、40代、60代で上位となった。

18～29歳 (%)

NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	31.5
民放テレビの報道番組（全国ニュース）	29.1
都道府県や市区町村のホームページ	26.7
政府のホームページ	24.8
特になし	21.2

50～59歳 (%)

NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	46.8
民放テレビの報道番組（全国ニュース）	38.3
都道府県や市区町村のホームページ	30.5
スマートフォンで利用できるニュースアプリ	27.3
政府のホームページ	21.4

30～39歳 (%)

民放テレビの報道番組（全国ニュース）	37.9
NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	36.2
スマートフォンで利用できるニュースアプリ	31.0
都道府県や市区町村のホームページ	27.0
ポータルサイトのニュース	26.4

60～69歳 (%)

NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	53.3
民放テレビの報道番組（全国ニュース）	49.7
新聞（読売、朝日、日経、産経、毎日）	32.3
都道府県や市区町村のホームページ	28.1
ポータルサイトのニュース	25.1

40～49歳 (%)

NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	45.1
民放テレビの報道番組（全国ニュース）	37.4
都道府県や市区町村のホームページ	35.4
スマートフォンで利用できるニュースアプリ	28.6
ポータルサイトのニュース	22.3

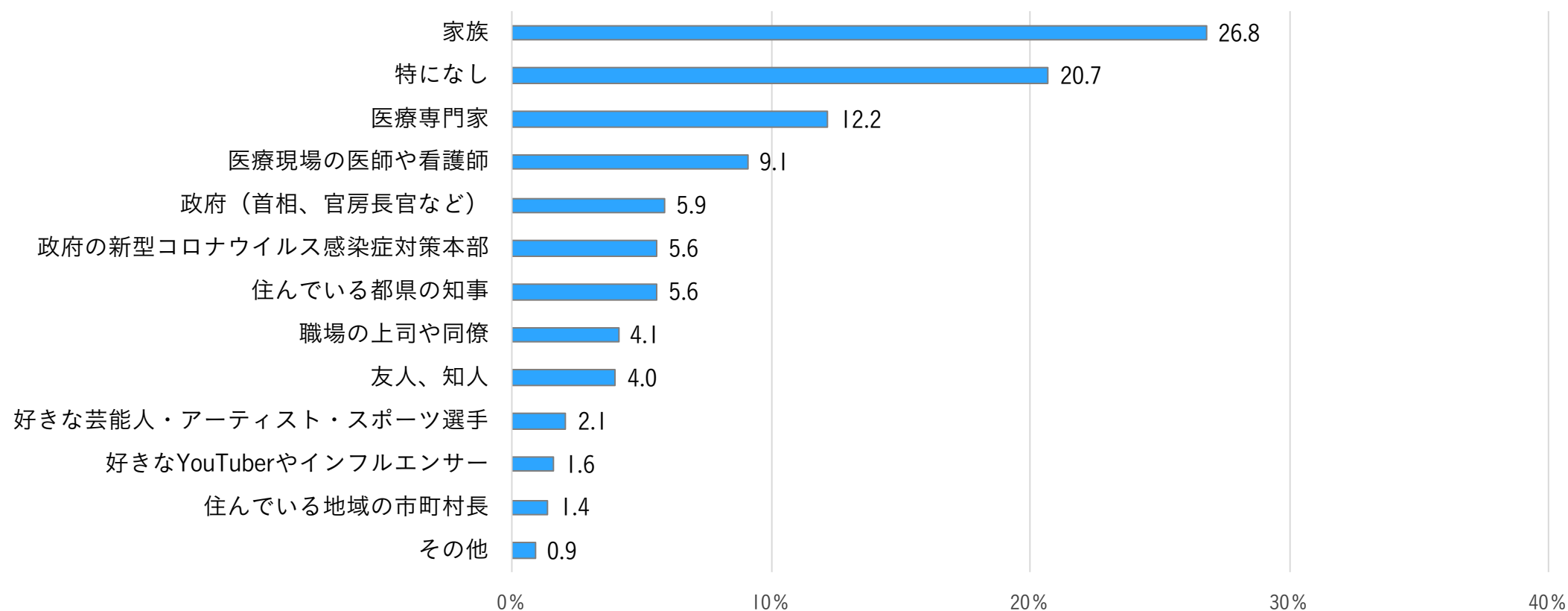
70～79歳 (%)

NHKテレビの報道番組（全国ニュース）	66.4
民放テレビの報道番組（全国ニュース）	57.5
新聞（読売、朝日、日経、産経、毎日）	53.0
都道府県や市区町村のホームページ	38.8
NHKテレビの報道番組（地域のニュース）	38.8

■自身が影響を受ける人物

自分の行動を判断する際に「最も影響を受ける」人物は、
1位「家族」、2位「特になし」、3位「医療専門家」。

Q：新型コロナウイルス感染拡大が深刻になる中で、自分の行動を判断するために、あなた自身が最も影響を受ける人は誰ですか。



■自身が影響を受ける人物：性年代別

性年齢別でみると、男性は「政府（首相、官房長官など）」、女性は「住んでいる都県の知事」に影響を受けている傾向が見られた。他の年代と比べ、男性10～20代（14.1%）は、「政府」から影響を受ける人の割合が大きく、「家族」に次いで2番となった。

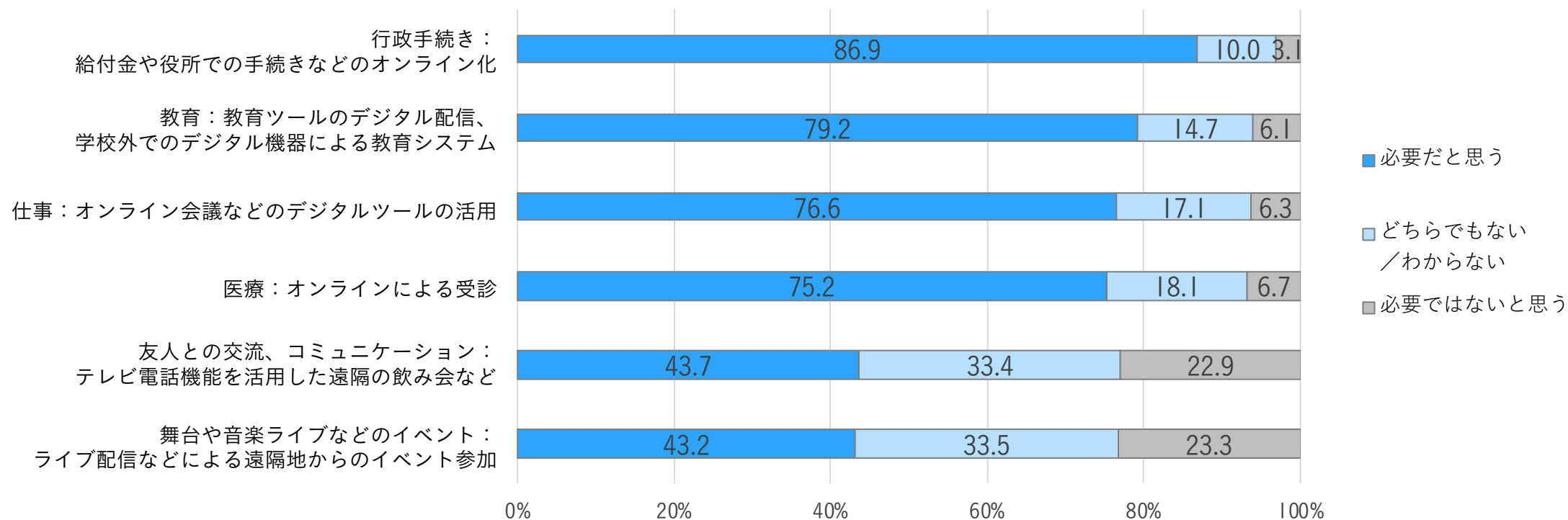
Q：.新型コロナウイルス感染拡大が深刻になる中で、自分の行動を判断するために、あなた自身が最も影響を受ける人は誰ですか。

	医療専門家	医療現場の 医師や 看護師	政府の 新型コロナ ウイルス 感染症対策 本部	家族	友人、知人	好きな 芸能人・ アーティスト・スポー ツ選手	好きな YouTuberや インフルエ ンサー	職場の 上司や同僚	政府 (首相、 官房長官 など)	住んでいる 都県の知事	住んでいる 地域の 市町村長	その他	特になし
男性全体	12.5	7.8	4.8	25.2	4.2	1.8	2.0	4.6	8.0	3.8	1.8	0.8	22.9
男性18～29歳	10.6	3.5	3.5	23.5	4.7	4.7	3.5	4.7	14.1	5.9	1.2	2.4	17.6
男性30～39歳	11.2	6.7	2.2	23.6	3.4	4.5	2.2	3.4	10.1	1.1	0.0	1.1	30.3
男性40～49歳	8.5	7.5	6.6	21.7	4.7	0.9	2.8	6.6	8.5	6.6	3.8	0.0	21.7
男性50～59歳	17.7	3.8	11.4	29.1	2.5	0.0	0.0	2.5	5.1	0.0	1.3	0.0	26.6
男性60～69歳	8.5	13.4	2.4	30.5	4.9	0.0	1.2	7.3	3.7	3.7	1.2	0.0	23.2
男性70～79歳	22.6	12.9	1.6	24.2	4.8	0.0	1.6	1.6	4.8	4.8	3.2	1.6	16.1
女性全体	11.9	10.5	6.4	28.4	3.8	2.4	1.2	3.6	3.8	7.4	1.0	1.0	18.5
女性18～29歳	15.0	10.0	1.3	32.5	2.5	6.3	3.8	6.3	8.8	3.8	0.0	0.0	10.0
女性30～39歳	8.2	14.1	5.9	29.4	5.9	4.7	1.2	7.1	1.2	5.9	1.2	0.0	15.3
女性40～49歳	12.0	9.0	5.0	26.0	3.0	3.0	1.0	3.0	2.0	9.0	1.0	0.0	26.0
女性50～59歳	8.0	12.0	9.3	26.7	2.7	0.0	0.0	2.7	1.3	10.7	1.3	1.3	24.0
女性60～69歳	15.3	8.2	8.2	23.5	2.4	0.0	0.0	2.4	5.9	9.4	2.4	3.5	18.8
女性70～79歳	12.5	9.7	9.7	33.3	6.9	0.0	1.4	0.0	4.2	5.6	0.0	1.4	15.3

■デジタルツールの活用について

「行政手続き」のオンライン化の必要性を感じる人の割合が86.9%と一番高く、
ついで「教育」の79.2%が続いた。すべての項目で「必要」が「必要ない」を上回った。

Q：仕事や生活におけるデジタルツールの活用について、あなたのお考えを教えてください。
（「必要だと思う」、「必要ではないと思う」、「どちらでもない／わからない」の3択）



■ デジタルツールの活用について：性年代別

「必要だと思う」と答えた比率を性年代別に見てみると、男女別で差が出た項目としては「教育」で、女性全体が83.5%、男性全体が75.0%で双方ともに高いものの女性の方が8.5ポイント高く、女性のほうが必要性を感じているとわかる。「舞台や音楽ライブなどのイベント」については年代別の差が大きく、10～20代の65.5%が必要と答えた一方で、年齢層が高まるほど低くなり、70代では26.1%まで下がる結果となった。

Q：仕事や生活におけるデジタルツールの活用について、あなたのお考えを教えてください。（「必要だと思う」、「必要ではないと思う」、「どちらでもない／わからない」の3択）

「必要だと思う」と回答した割合 (%)	行政手続き	仕事	教育	医療	友人との交流、コミュニケーション	舞台や音楽ライブなどのイベント
全体	86.9	76.6	79.2	75.2	43.7	43.2
18～29歳	86.1	80.6	78.2	70.9	61.8	65.5
30～39歳	83.9	77.6	78.7	68.4	51.7	44.8
40～49歳	88.3	78.6	78.6	83.5	42.2	41.7
50～59歳	90.3	79.9	81.8	79.2	37.0	40.9
60～69歳	86.2	73.1	83.2	76.6	31.7	37.1
70～79歳	86.6	67.9	73.9	70.1	35.8	26.1
男性全体	86.7	76.3	75.0	74.6	43.3	40.8
女性全体	87.1	76.9	83.5	75.9	44.1	45.7

■外出する他者に対する許容度

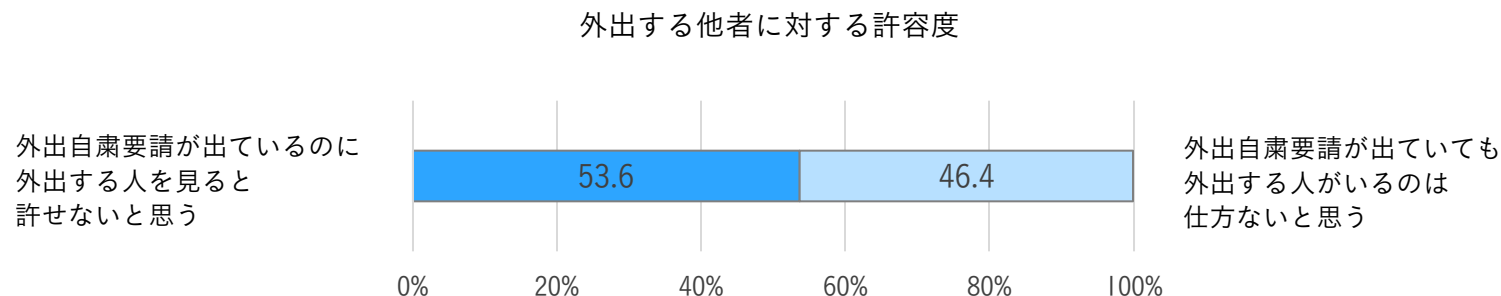
外出する人に対して、全体では「許せない」が **53.6%** と「仕方ない」よりもやや多い。

Q：4月25日以降、自分や他人の行動をふりかえって、あなたの考えはどちらに近いですか。

(Aに近い・ややAに近い・ややBに近い・Bに近いの4択)

A：外出自粛要請が出ているのに外出する人を見ると許せないと思う

B：外出自粛要請が出ているのに外出する人がいるのは仕方ないと思う



■性年代別

男女別では、女性の方が比較的「許せない」と答える人の割合が多く、特に若年層の女性は高いスコアが出ている。

外出する他者に対する許容度：生年代別 (%)

	許せない	仕方ない		許せない	仕方ない
男性全体	48.9	51.1	女性全体	58.4	41.6
男性18～29歳	44.7	55.3	女性18～29歳	61.3	38.8
男性30～39歳	52.8	47.2	女性30～39歳	64.7	35.3
男性40～49歳	45.3	54.7	女性40～49歳	56.0	44.0
男性50～59歳	54.4	45.6	女性50～59歳	53.3	46.7
男性60～69歳	48.8	51.2	女性60～69歳	56.5	43.5
男性70～79歳	48.4	51.6	女性70～79歳	58.3	41.7

■規制に対しての考え方

外出規制を「強制したほうが良い」が **65.4%**

Q：4月25日以降、自分や他人の行動をふりかえて、あなたの考えはどちらに近いですか。

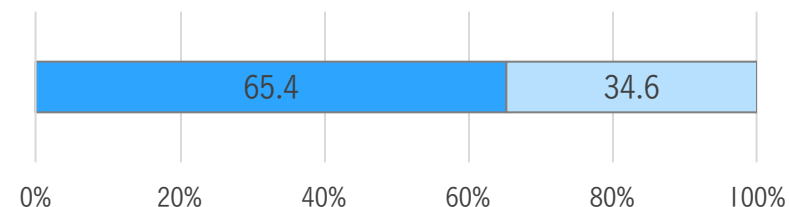
(Aに近い・ややAに近い・ややBに近い・Bに近いの4択)

A：外出規制などは罰則を与えるなどして強制したほうが良い

B：政府や自治体が外出を規制するのではなく、個人の裁量に任せたほうが良い

外出規制などは
罰則を与えるなどして
強制したほうが良い

規制に対しての考え方



政府や自治体が
外出を規制するのではなく、
個人の裁量に任せたほうが良い

■性年代別

個人の裁量に任せるべきかについては、女性の全年代で「強制したほうが良い」と答える人の割合が多く、特に若年層ほど高いスコアが出ている。

規制に対しての考え方：性年代別 (%)

	強制したほうが良い	個人の裁量に任せたほうが良い		強制したほうが良い	個人の裁量に任せたほうが良い
男性全体	62.6	37.4	女性全体	68.2	31.8
男性18～29歳	65.9	34.1	女性18～29歳	75.0	25.0
男性30～39歳	65.2	34.8	女性30～39歳	72.9	27.1
男性40～49歳	62.3	37.7	女性40～49歳	69.0	31.0
男性50～59歳	63.3	36.7	女性50～59歳	62.7	37.3
男性60～69歳	61.0	39.0	女性60～69歳	62.4	37.6
男性70～79歳	56.5	43.5	女性70～79歳	66.7	33.3

■考察

「いのちを守る STAY HOME 週間」の全体認知は96.0%。外出自粛率も90%を超えており、この取り組みが「人」の意識や行動に反映されたことがわかりました。また STAY HOMEを実践するあいだに、自分が持っている情報やスキル、時間を、社会や地域のために活用していきたいという貢献への意識が芽生えていることも確認できました。

行動変容のトリガーとなる人については「家族」「医療専門家」が上位となり、「外出規制などは“強制した方が良い”」との回答が多くなりました。こうした「人」の意識は、今後の政策展開や情報発信における参考になると考えます。

GW期間中であつたにも関わらず、外出自粛ができなかった理由に「仕事」を挙げる人が53.6%でした。今後、外出自粛が緩和されれば、「仕事」に伴う外出行動が再活発化し、通勤通学の三密状況が懸念されます。また、特定警戒都道府県とそれ以外の県において人の移動や休業要請などの施策のレベルに違いが生じるようになると、「人」の意識や行動がさらに変化していく可能性があります。

専門家会議が「新しい生活様式」を提唱し、認知が進んでいますが、個人の行動にとどまらず、社会に対する人びとの意識の高まりや、新しい社会システムの構築につながるかどうか、電通総研は注目していきます。